

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	法学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学生の学修ニーズに合わせて教育効果を高めるような専門科目の履修を促進する。	→履修説明の実施回数と、履修モデルの提示	B	B			
2. 演習科目のメニュー・数を増やして各年次に系統的に配置する。	→演習の種類・開講数と履修登録率・単位取得率	B	B			
3. 各専門科目の履修年次を見直し、効果的に配置する。	→履修年次を変更した科目の履修登録率・単位取得率	B	B			
4. 早期卒業をつうじたジョイント・ディグリー取得や大学院進学を奨励する。	→複数分野専攻制（MDS）履修者数（他学部生の履修者数、法学部生の履修者数）、早期卒業によるジョイント・ディグリーの取得者数（他学部生の法学士取得数と法学部生の他学部の学士の取得者数）、大学院進学者数（法学研究科・司法研究科への進学者数）	B	B			
5. 各年次の履修科目登録数の上限を設定し、系統的・効果的な履修を可能にする。	→学生の各年次の単位修得状況	B	B			
6. 少人数教育の専門科目を系統的に配置する。	→少人数教育の科目の開講数、履修登録率・単位取得率	B	B			
7. 到達目標・シラバスの内容を明確化・詳細化し、授業内容との整合性を図る。	→授業内容の満足度調査、およびシラバスとの整合性に関する調査	B	B			
8. 適正かつ厳正な成績評価を確保する。	→成績評価・成績分布調査結果の各教員への周知	B	B			
9. 学習会・研究会などの企画をつうじて各教員に授業方法を検討する機会を増やす。	→FD（ファカルティディベロップメント）やカリキュラム検討のための学習会・研究会の実施回数・参加人数	A	A			
10. 個別学修相談の機会を増やす。	→個別学修相談の件数	B	B			

☆

2010年度以降に設定した「目標」		左記目標の「指標」		2009	2010	2011	2012	2013
	→							
	→							

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 教育目標の達成に向け、いかなる授業形態(講義・演習など)が適切かについては、2012年度から実施のカリキュラム改革に向けて、拡大カリキュラム委員会で検討し、新カリキュラムに反映させる予定である。履修科目登録の上限設定や学習指導の充実についても、拡大カリキュラム委員会やFD研究会において検討を進めている。またD課程の大学院生のTAによる、学生の学習相談の機会も設けている。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) シラバスの作成、およびその内容の充実については、各教員に周知・徹底し、授業内容や方法とシラバスとの整合性についても留意を促している。
★ 小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) 成績評価および単位認定については、原則として各科目の成績分布表を、全教員が一定期間閲覧できる状態にし、成績評価および単位認定の公平性が保たれるよう努めている。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) FD研究会を実施し、授業内容および方法の改善を図っている。
その他	

《評価指標データ》

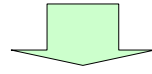
- 履修者数規模別の授業科目数(少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目(平均点が70-75点)の比率
- GPA値(全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業(授業公開)の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率(全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率(大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数(査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

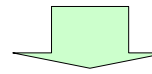
注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

- 目標9の進捗評価は「A」となっています。「効果が上がっている事項」として、他部局の参考となるような工夫があるのではないのでしょうか。長所の洗い出しにも積極性が望まれます。
- 「現状の説明」6.3.2の説明は、「シラバスに基づいて授業が展開されている」の根拠としてはやや薄弱です。

【学内委員】

- 目標の9の達成度は「A」としていますが、6.3.4の現状説明でFD研究会の開催回数や参加教員の比率など具体性に欠ける点があります。また、昨年度の自己点検・評価の追加記述の中で、アンケート調査の実施と記述されていますが、結果について言及することが期待されません。
- カリキュラム改革については拡大カリキュラム委員会で、履修科目登録の上限設定や学習指導の充実については拡大カリキュラム委員会やFD研究会で検討中とのことですが、本シートにおいても、検討の論点や方向性などの概要を示す必要があります。
- 小項目6.3.2、小項目6.3.3、小項目6.3.4については、目標に対して概ね順調に進展しています。
- カリキュラムの検討中であることは理解できますし、そのことは大変評価できますが、現状の教育方法および学習指導、シラバスの内容、成績評価方法・評価基準を明示しているか、などの状況がまったく分かりませんので、要素などを参考にした説明が望まれます。
- 検証は回数が重要ではありませんが、説明の根拠を示すことは重要なことですので、できるだけ具体的な記述が望まれます。
- 昨年度の追加記述におけるアンケート実施について、現状説明などでの説明が望まれます。

- 昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・順調に進捗している状況と判断されますが、「効果が上がっている事項」または「改善すべき事項」のいずれかに何らかの記述があった方が望ましいと思われまます。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置（厳格な成績評価など）が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1～6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」（評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。）

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○目標9「学習会・研究会などの企画をつうじて各教員に授業方法を検討する機会を増やす」については、FD研究会を定例的に開催するようになっている。なお、2011年度は、4大学のIRプログラムに学部として参加して学生の満足度などについての調査にも取り組む予定となっている。

○「現状の説明」6.3.2「シラバスに基づいて授業が展開されている」という点については、

① 全学的運用にしたがって、シラバスはHPに掲載され、授業内容、参考文献、他に履修する事が望ましい講義、成績評価方法等が記されている。

★ ② 学生からの授業評価において、シラバスにしたがっているかが調査され、授業評価の結果を教員が利用することが促されている。という現状となっている。

○カリキュラム改革については、1、基礎からの学び。2、進路希望に応じた学び。3、少人数での学び。4、高い水準の法律の学び、の強化を行う。これらの改革については、2011年度夏にウェブページで公開した。

○2010年度は大規模な新カリキュラムの策定についての準備作業が中心的活動として行われた。2011年度もその作業を円滑に進めるとともに、新カリキュラムの下での教育の現状及び効果に関する指標を順次検討し整備していく。